

戸籍のまぐわ (11月届出分)

★お誕生おめでとう

山本 惇^し 唯^い (卓人) 鹿橋
 上路 幸^{こう} 祈^き (一仁) 大利
 三國 真^ま 聖^と (貴之) 古野 牛川
 増永 滯^{みお} (賢二) 砂子 又

★ご結婚おめでとう

田中 浩二 (入口)
 田中 舞 (六ヶ所村)

★お悔やみ申し上げます

道端 純二 (尻屋) 92歳
 大槻 さと (岩屋) 93歳
 大槻 たき (岩屋) 88歳
 川島 秀己 (尻屋) 64歳
 宮本 武光 (下田屋) 59歳
 向井 たきゑ (尻労) 98歳
 川上 市三郎 (襦部) 86歳
 川島 洋悦 (尻屋) 74歳
 本田 フミエ (白糠) 92歳

※個人のプライバシーを尊重する意味で載せては
 しくない方は届出の際に係に申し出てくださる
 ことをお願い致します。

東通村 ジオパーク 探訪

今号は、ヒバの埋没林ができた時期や理由を、様々な“説”と一緒に紹介していきます。

猿ヶ森砂丘周辺に広がるヒバの埋没林は、およそ、2,000年前・1,000年前・500年前と最近形成されているものの4期間に大別して形成されたとされています(調査によって若干の前後があります)。

この埋没林ができた理由を考えるためには、枯れた要因と埋もれた要因をそれぞれ考える必要があります。まず、枯れた要因としては、大きく次の3つの性質に分けられると考えられています。

①自然災害的要因：津波被害や湖沼群の形成(28年10月号参照)で水没したことによる枯死

②人為的要因：砂丘の土地開発や、かつて行われたと考えられる製鉄のための燃料としての伐採など

③生物学的要因：樹齢や枯死年代が分散しているので、個々のヒバが生活史の中で自然に枯れた

一方で、埋もれた要因は④津波などの被害で一度に埋もれてしまった ⑤海水面の変動や波・風によって運ばれた砂が徐々に森林(陸地側)を覆っていった ⑥土地の開発で植生がなくなり、それまで植物に固定されていた砂が風雨で動かされ砂丘自体が移動した といったことが考えられています。

現在、ヒバの埋没林は、これらの様々な要因が複雑に重なり合って形成されたと考えられています。

ひがしどおりのさんぽみち

タイトル:サケの採卵

情報提供者:老部川内水面漁協

今回のさんぽみちは、老部川内水面漁協からの情報提供です。

6月号で東通小学校のサケの稚魚放流を紹介しましたが、今回は、サケの採卵について紹介します。

サケの採卵とは、川に帰ってきたサケから卵を採取して、受精させる作業。サケが死んでから時間が経ってしまうと受精がうまくいかなくなるため、サケを捕まえてからこの作業をするまで、時間との勝負になります。老部川内水面漁協では今年は約600万個もの卵を受精させました。この卵は、11月下旬から1月下旬に孵化し、3月下旬～5月上旬ごろに放流された後アラスカで成長し、東通村に戻ってくるのはさらに4年かかります。

今年のサケの漁獲量は、不漁だった前年なみとのことで苦しい状態が続いていますが、美味しいサケをこれからも獲り続けられるよう、このような形で努力がされています。



①老部川に遡上したサケを捕獲します



②サケから卵を取り出します



③オスの精子をかけます



④卵を傷つけないように混ぜ、受精させます